

「シニア総合大学（通信制）」開学構想・・・夢物語（4）

篠崎 辰夫

このたび、8月の改造内閣で掲げられた「人づくり革命」の一環として「シニア総合大学」の開学構想が打ち出された。趣味を生かしたい、社会に奉仕したい、もっと勉強したい、などシニアの生き方全体への取り組みが期待される。

<目的>

「人づくり革命」と、アクティブシニアの裾野拡大、そして健康長寿を延ばすこと。それによる高齢者医療費と介護費用の大幅削減を図る。（後追いの政策から上流の政策へ）

<構想の概要>

1. 文部科学省認可の通信制大学で、60歳以上の定年退職者が対象。期間は原則2年。
2. 学習方法
 - (1) 印刷教材等による授業（自己学習）
 - (2) 放送大学によるテレビ・ラジオ放送での講義（放送授業）
 - (3) インターネット動画配信にて講義を視聴させる（インターネット授業）
 - (4) 課目により、面接授業（スクーリング）
 - (5) 実習（社会福祉士などの国家試験受験資格を取得する場合の社会福祉施設等）
3. 予定学部
健康メディカル学部、地域創生学部、生涯学習学部、介護福祉学部、宗教文化学部等
4. 学費・・・原則国が負担。但しスクーリングや実習の実費は自己負担。

文部科学省認可の大学なので、修了者には「学位」や「資格」が授与されるほか、各種国家試験受験資格も取得できる。また高齢者自動車免許更新時の認知機能試験が免除される。

現在政府としては「一億総活躍社会」「人づくり革命」を、担当大臣中心に取り組んでいるが、どうも“年寄りももっと働け”と煽り立て、年金減額・支給先送り等の目的が透けて見えてくる。“激減した賃金のまま働き続けろ”という状態で放り出されてはたまらない。

そもそも「人づくり」は、文部科学省のテリトリーのはずであるが、担当大臣がやることになり、文科省としてはおもしろくない。そうはさせないということか、このシニア総合大学構想は、文部科学省から出てきたもの。加計学園問題でかぶせられた汚名返上という側面もあってか、目下開学に向けて積極的に取り組んでいる。

しかし、早速この構想に、官邸や内閣府がなにかと難癖をつけ、実現が危ぶまれている。加計学園問題の文部科学省に対する、内閣府・官邸の意趣返しと、政府と官僚の主導権争いが強く働いているようだ。まだまだ「総理のご意向」「忖度」がないと物事がうまく運ばないようで、すっかり行政がゆがめられている。困ったものだ。

あくまで夢物語、勝手な構想ですが、だめでしょうか。まあ、だめでしょうねえ。

「人づくり」は、シニア層がリードしていかなければならない。シニアが元気になれば、日本はもっと元気になる。**文部科学省、頑張れ！**